

ミス隠へい「組織の問題」

東京女医大 幹部ら供述 心研の体質批判

東京女子医大病院の心臓手術ミス・隠へい事件で、病院幹部らが警視庁の事情聴取に「ミスや隠へいは(手術を行った)病院付属日本心臓血圧研究所の体質に責任がある」と述べ、組織上の問題が事件に深く影響したことを自ら認めていることが関係者の話で分かった。

また、一部の医師は、操作ミスが起きた人工心肺装置について「先輩医師のやり方を見よう見まねで覚えるしかなかった」と、教育システムの不備を具体的に説明しているという。

同病院の組織は心臓血管研究所(心研)のほか、臓器別に治療を担当する「消化器病センター」「脳神経センター」などに分かれている。心研は五つの診療科から成り、病院の看板である心臓手術を担当する循環器外科と循環器小児外科が含まれている。今回の事件は、循環器小児外科で起きた。関係者によると、警視庁の事情聴取は、執刀医師の瀬尾和宏容疑者(46)の証述隠滅容疑で逮捕されたほか、病院長や、循環器小児外科の当時の主任教授など複数の幹部に対しても行われた。

幹部らは、手術に使われた人工心肺装置の操作方法について、心研で医師の教育システムが確立されていなかったことや、ミスを告発する文書が事故直後に大学経営陣へ届いたのに、心研の判断で病院の事故再発防止機関「安全管理委員会」に報告されなかった経緯を説明した。そのうえで、「心研には、(看護記録などの)改ざんが行われたことも含めて組織の体質の問題があり、改善する必要がある」と述べたという。

また、人工心肺装置のトラブル時の対処方法などを現場の医師が知らなかった点について、一部の医師は事情聴取に「新入医局員は、先輩の見よう見まねで操作を覚えるしがなく、徹底的に教えられなかった」と話しているという。

女子医大小児心臓手術事故

心研体質

2002年7月5日 毎日新聞